

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 5月1日は、気圧の谷が本州付近を通過し、日本の南から東シナ海には前線がのびる。一方、高気圧が日本海西部に進む。
- 2日は、高気圧が北・東日本付近を東進する。前線は日本の南から東シナ海で停滞する。
- 3日は、北日本に気圧の谷が進む一方、朝鮮半島付近に高気圧が進む。東シナ海には前線がのびる。
- 4日は、本州付近は日本海の移動性高気圧に覆われる。
- 5日は、移動性高気圧が東日本付近を南東に進み、西日本から沖縄・奄美では湿った空気の影響を受ける。

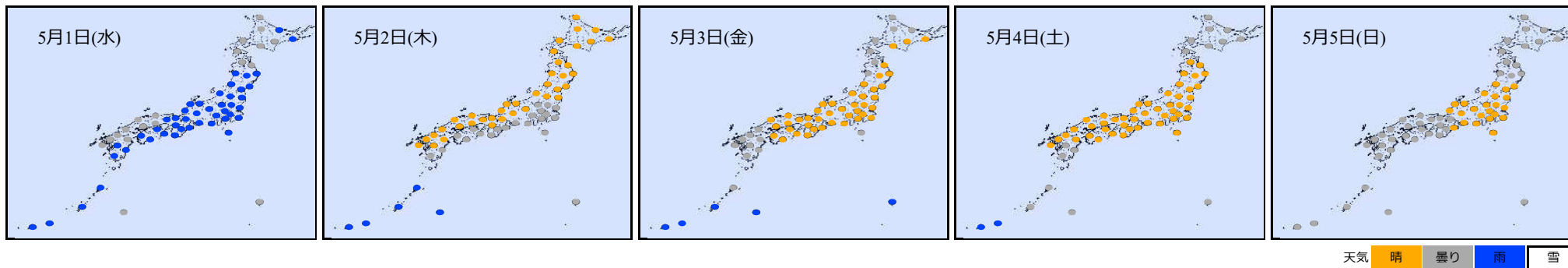
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 北・東日本は気温が平年より高い日が多く、積雪の多い所ではなだれ等に注意。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

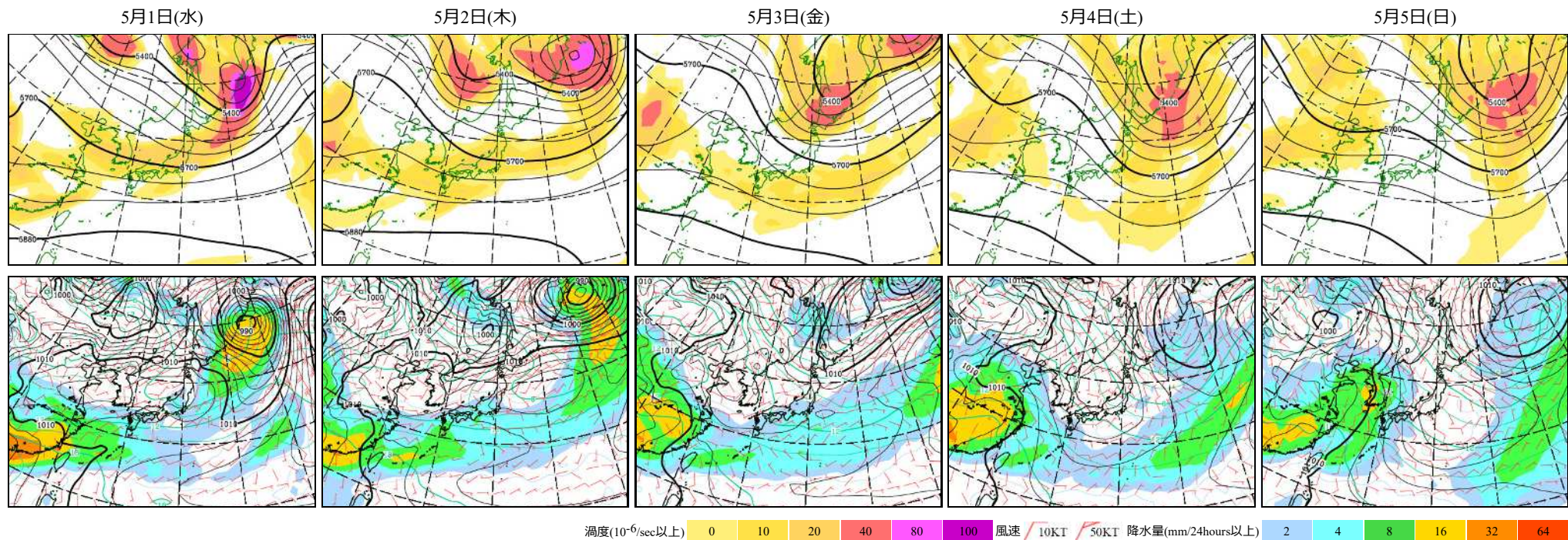
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

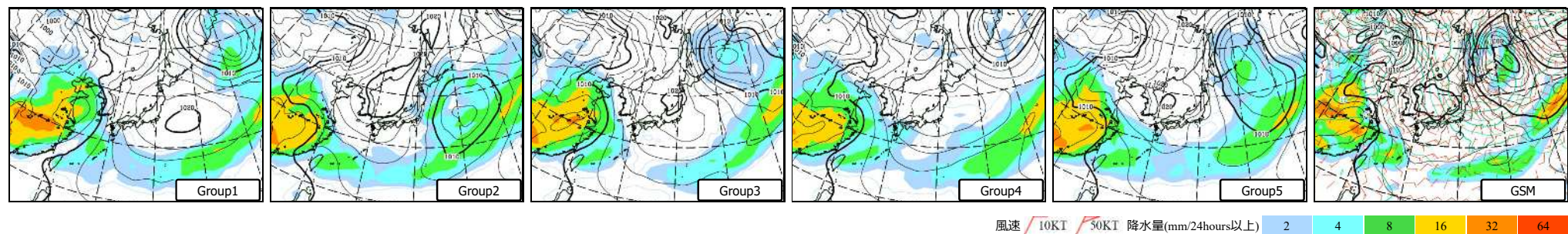


- 北日本から西日本では、5月1日に雨の所が多いほかは、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美では、期間を通して曇りや雨の日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月4日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- スプレッドは、5月4日頃から大きくなる。
- 5月1日は、日本モデルと海外モデルで地上天気図の差は小さいが雨域については差が見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、5月1日は海外モデルの予想を参考に、FEFE19で予想されている降水域を広げて考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。